

ボランティアだより

第22号

平成25年 3月15日発行
編集発行
尾花沢市社会福祉協議会
尾花沢市ボランティア連絡協議会
東光館内 ☎22-1092



おばね雪ほり隊 ありがとう



初めての体験で、太平洋側の者がいかに恵まれているか痛感しました。できれば来年も参加させていただきます。
岩沼市 K 氏

今日は初めての雪かきだったので、お力になれて良かったです。
岩沼市 M 氏

雪の量におどろいた。津波の時にお世話になったので、また参加したい。
岩沼市 S 氏

厳しい環境で暮らす方の役に立つのであればうれしいです。おばあちゃん娘の面倒見てくれてありがとう。岩沼市 O 氏

想像を絶する雪でした。又、機会があれば是非参加したいと思います。芋煮美味なり。岩沼市 I 氏

雪が思った以上に深く足がとられ本当にうもれてしまうと思った程でした。しかし、こんな中で雪かきできたことは、とても良い経験になりました。微力ですが少しでも役に立てて良かったです。
岩沼市 A.S 氏

昨年も雪かきに市の職員として参加させていただいておりましたので、今年はさらに力になれるであろう、そう思い挑ませていただきました。しかし、降り続く雪は昨年よりも多く感じ、自然の大きさを感じ、思い知らされました。わずかではありますが、力になれたのであれば幸いです。ありがとうございました。今後共よろしく願います。
岩沼市 N 氏

あまり雪に縁のない地域で生活しているので、雪国の地域の方々の生活苦勞がよくわかりました。
奈良市 K 氏

芋煮おいしかったです。また来ます!!
千葉県 O 氏

みなさんのもてなしの心。最後の雪遊びなど、いろいろ楽しませていただきました。是非また参加させていただきたいと思っています。ありがとうございます。
川崎市 T 氏



震災復興支援ボランティア

六沢大根と尾花沢中2年生のメッセージと共に

尾花沢市ボランティア連絡協議会 会長 大類 よつ子

今冬も記録的な大雪に見舞われ、皆様には大変な日々をお過ごしのことと存じます。この大雪にもめげずに日頃のボランティア活動にご尽力下さりまして有難うございます。

さて、今冬に社協が立ち上げた「おはね雪ほり隊」をつけて、一月二十六日、豪雪の中を寺内ご出身の岩沼市社会福祉協議会会長、三浦一朗様をはじめ三十五名の岩沼市民ボランティアと、同日、遠くは奈良県、東京都、千葉県など九名の方が集まり、除雪ボランティアに参加して下さいました。

岩沼市民の中には、震災の時家が流された中学生四名参加していることを聞き胸が熱くなりましたが、元気な子供達と逢って嬉しく思いました。その日、当ボランティア連協ではいもこ汁を作り、あったかいおもてなしでお迎えしました。雪ほりボランティアは、皆さん手弁当当なのです。いもこ汁はおかわりがどんどん出るほど喜んでもらいました。又、持ち寄ったペーパー漬け、かき漬け、一夜漬けも盛りだくさんで大好評。漬物談義で盛り上がりました。心に残ることがありました。ご両親と一緒に参加した、小学二年生の美有ちゃんがおりました。除雪作業終了後、「雪を見てびっくりした？」と尋ねると「びっくりしたけど、パパとママが仕事をしている時、私はその家のおばあちゃんと炬燵でお話していたの」と答えてくれました。「お利口さんだったね。おばあちゃんお話しできて喜んだと思うよ」と頭を撫でてあげるのにっこりうなづいてくれました。美有ちゃんも立派なお話しボランティアをしてくれたのです。

まもなく震災から丸二年になります。復興の歩みは遅いように感じられますが、被災された皆さんが一日も早くもとの生活が出来るように願っています。

当会では、昨年十月十二日復興支援ボランティアとして岩沼市仮設住宅へ六沢大根四百本と尾中二年生が書いてくれた励ましのメッセージカードを持参し訪問しました。当日は市健康福祉課のご協力で大根運搬は心配なく運ぶことができました。六沢大根は生産組合の心配りで格安にしてみました。立派な大根に尾中二年生が書いてくださったメッセージカードを一本一本にそえて配り、又、仮設の集会所をお借りし、会員による「とんと昔」語りも披露してきました。今頑張っている皆さんのいろいろなお話しを聞くこともできました。仮設住宅で生活をしている皆さんは、新鮮な大根を手にして早速、今晚はおでんにしたいと言ってくれました。

一つの事業を実現するには、多くの方の力があってこそ出来ることを痛感したところで、ご協力いただいた皆さんに感謝申し上げます。

これからも、地域でのボランティア活動と共に被災地にも心を寄せていきたいものです。



岩沼市社会福祉協議会

会長 三浦 一朗様より

拝啓 寒さ殊のほか厳しい昨今でございます。昨日の岩沼市民による「おはね雪ほり」ボランティアとしてお伺いいたしました際には、御市社会福祉協議会小野会長はじめ多くの皆様のお心温かい対応を頂きまして誠にありがとうございました。心から厚く御礼申し上げます。

今年は今冬からの降雪のため御地では大変な状況にあることと拝察しており、一昨年の震災直後から御市の行政の皆様始め貴福祉協議会の多くのボランティアの皆様からお心温かいご支援と励ましを賜りましたことに少しでもお応えしたいと今回の「雪ほりボランティア」を計画いたしました。津波で被災した地域の中学生をはじめ市内の各団体、企業、市民や仙台市からも参加を頂き、限られた短い時間ではありましたが少しでも御地の皆様のお役に立ちたいとの参加者の熱い思いが実現できたことをとても嬉しく思っております。

帰りのバスの中で参加者全員から感想をお聞きしましたが、「大変な豪雪の中で生活されている人々のご苦勞が身にしみて分かった。雪ほりが出来ない人達の役に立てて嬉しい。参加できてよかった。次回も是非参加したい。震災でとても大きな温かい支援を頂いたので少しでもお返ししたい。一人暮らしのおばあさんから作業が終わった後に「ありがとう」と言われたことが何より嬉しかった」など、参加者全員が達成感を感じておりました。

御市の冬期間の雪対策はご苦勞の多いことと思っておりますので、当社協といたしましては、今後も岩沼市民による「雪ほり」ボランティアとして御市のお役にたてれば幸いと存じております。

これからも雪対策でご苦勞の多いことと思いますが、地域福祉に「活躍」と「発展」を心から祈念申し上げます。ありがとうございました。

平成二十五年一月二十七日

草々

ボランティア活動を振り返って

母子寡婦福祉連合会 横山 康子

平成七年七月十日、尾花沢市ボランティア連絡協議会が設立、一月十七日阪神淡路大震災が起こった年であり忘れられませんが、ボランティアとは？からの研修の日々でした。今はボランティア団体が増え特に学校の生徒さんも種々の活動に知恵と汗をながしている姿を見るにつけ、将来がとても楽しみです。



私達の団体は年三回の活動を組んでいます。県の事業もいろいろある中で、日程を組むのが大変な時もあるが、主に施設を訪問、食堂等の掃除、洗濯物やガーゼたたみ、ぬりえをしながら話し相手、ドライヤー掛け等、私達に合った内容の活動をさせていただいています。会員同士の交流の場となり楽しいひと時でもあります。今は年々健康面等の理由で活動できる会員が減少、ひとり親で子育てに頑張っている若い会員に少しずつ受け継いでほしいと念願しています。

◆毎週一回の夜、日本語教室にママと一緒に来る幼児達と遊んだ事。

◆一人暮らしの方への弁当配達時に、季節の便りや安否伺いのひとことを一筆箋に書き一緒に配達していただいた事。

この二点が特に懐かしく思い出されます。

笑顔とともに地域活動

悠美会 加藤 朋子

五年前から始めた絵手紙教室に昨年からは市内の子供達も加わり三世交代交流絵手紙教室をおこなっています。

絵筆をとりハガキに向かっているときの顔は、大人も子供も真剣そのもの。描きあがったときの子供達は弾けるような笑顔で「先生できました。見てください。次に〇〇描いてもいいですか。」と元氣一杯。一緒にいる私達も、つい絵筆を止めて「どれ見せて見せて」と一休み。

丹生川鮭のふるさと祭りでは、平成十八年から子供達の出席を考えて開設した「だかし屋築校」でだかし屋のおばちゃんになり子供達と交流。又花笠踊りの指導と、荻越し拓魂太鼓の子供達と太鼓と踊りの共演等で子供達にかかわり元氣と笑顔を沢山貰っています。

その他、ハイマート福原Gホームの夏祭りでは、汗を流しながら飲み物とババヘアアイスの配布係や、結成以来続けています老人施設の慰問と地元荻袋地区の敬老会の手伝い等が悠美会の活動です。

その功績が認められてか、昨年「県民福祉大会会長表彰」と尾花沢市青少年健全育成優良団体表彰」を受賞しました。

今後ボランティア活動を通して子供達やお年寄りとのかわりを大事にしなが、地域の活性化に繋がっていきたくと思っています。



岩沼市復興支援ボランティア

個人ボランティア 横澤 義英

去年の十月十三日、私は東日本大震災に遭われた人達に（六沢大根）を持って行く、尾花沢の岩沼市復興支援ボランティアに参加しました。



尾花沢は少し曇っていたけれど、それ現地に着いたら晴れて来てよかったです。現地に着いて最初に感じた事は、地震で傷んだ道路の凹凸の酷さです、バスに乗ってスムーズに走れません、本当に地震は凄かったです。私達は仮設住宅の方の支援に行ったのだけれど津波に襲われた土地なんかはどうなっているのが心配でした。もう東日本大震災から二年も経つのですね。

尾花沢から四百本の大根（六沢大根）を持って岩沼市の被災者さんを支援して来ました、一本一本に尾花沢中学校の生徒からメッセージを載せ、大根に思いを込めて届けて来ました、少しでも支援になればいいと思います。

そんな私達を待っていてくれた被災者さんが大勢で私は本当に驚きました。また、復興支援ボランティアがあれば是非手伝いをやりたい、そんな気持です。





農協女性部のいよ

農協女性部 齊藤とよ子

三年続けての大雪、大変でしたね。春は確実にやってきます。雪が水になり私達の生活にかかす事のできないエネルギーです。野山も緑いっぱい自然を楽しませてくれるのも水の力です。私達の女性部は各支店ごとに部員に加入しています。ボランティア活動に全員が入っているわけではありません、連絡があったときに役員の中から参加しています。女性部は少しでも教養を高め社会的経済的地位の向上を目指し明るい豊かな地域社会を築くことを目的としています。さらに部員一人一人の主体的な発想をあくまでも基本とし団体活動である事を認識しながら仲間を増やし活動を前向き姿勢で行っています。年間の事業として、春一番にトマトの苗配付から始まり各支店又は地区全体で行う事業もあります。料理教室、手芸、漬物展示会、歌謡ショー、各支店の研修旅行、貸衣装の展示会、農協祭りには手作りのだんごも作り販売もしています。道の駅での鍋祭りのときも協力をしています。

年間通しますと、かなりの事業はあります。女性部ならではのパワーを発揮する場でもあります。心一つにして頑張っていくみたいです。



私達の活動

ふくらむ会 押切 和子

私達ふくらむ会の活動は、花植え、一人暮らしの人達への弁当作り、学童の子供達との流しソーメン、毎年行っています。

その間にいろいろな食改での活動と、会員が農家の人達が多いので仕事と重ならないように皆が協力できる日話し合って決めております。

食事作りは毎年十二月クリスマスに近い日を選んでメニューもいろいろ考え心と体にやさしいものに。配達は地区の民生委員さんをお願いしています。食へ終わって「おいしかったよ」のひとことと、とてもうれしく又がんばろうと、元気をいただいております。

学童の子供達も年々少なくなりちょっと寂しい気がします。流すものにソーメン、夏野菜トマト、キュウリなど、ダシにもこだわって地元で取れた数種類の野菜を入れて、家ではあまり食べない子供達も皆と仲良く食べてくれるととても喜んでくれます。

高齢者が多くなり、少子化が進んでいく時代、今できることを目標にこれからも活動がんばっていきなさいと思います。



更女の心を地域に

尾花沢市更生保護女性会 鈴木 紘子

『地域の中で更生保護の心を広めていこう』の思いでボランティア活動を始めました。当初は小さな活動でしたが、行政や地域の方々を支えられ活動の場が広がっています。

長年継続している尾花沢スイカを持参しての更生施設訪問や長寿園ボランティアに加え、数年前から託児ボランティアにも取り組んでいます。「小児救急講習会・子育て応援講演会」の託児ボランティアでは、母親と離れ泣き続ける子どもにもミルクを飲ませたり、おんぶしたりと悪戦苦闘しながらも若い頃の自分を思い出しながらお手伝いしました。

また、地域のひとと一緒に市内各小学校に向いての読み聞かせボランティアでは、子ども達との触れ合いを楽しんでいます。

これからも女性ボランティア団体として、今私たちが地域の中で無理なく出来る活動を模索しながら『更女の心を地域に』届けていきたいと思っています。



ボランティア活動について

ボランティアサークルりぼん 菅野亜寿砂

私たち「りぼん」は、高校生ボランティアサークル「風ぐるま」のOB・OGが、「高校生を卒業した後も、ボランティア活動を続けていきたい」という思いから立ち上げたサークルです。

主な活動内容は、尾花沢で行うイベントの手伝い、保育園や福祉施設等でのバルーンアート作り、街頭募金活動です。

この中でも、バルーンアートを得意としており、バルーンをプレゼントした時の、子ども達やお年寄りからもらう笑顔は、私たちの活動の源になっています。

今後は、これらの活動に加え、3・11の大地震から二年が経とうとしている今なお、復興に向けて頑張っている被災地の方々への支援や、地域の方々と交流を深めるために、活動の幅を広げていき、さらに笑顔が溢れるような地域づくりを頑張っていきたいと思えます。



「皆に支えられて」

ふきのとう 三浦喜代子

早いもので、ふきのとうの活動を始めて約三十年位になる。

これまで、色々な事をやってきた。読み聞かせ、人形劇、紙芝居、エプロンシアターなど。活動は場所も様々な処に呼んでいただき、たくさんの子供達、人々との出会いを重ねてきた。

そんな中、読書週間中にも声がかかる小学校での出来事である。最後の人形劇では、たくさんの子供達の声援につつまれ、私達も喜ばしい気持ちになっていた。

お礼の言葉を生徒の一人からいただいた。そのお礼の言葉が素晴らしく、私達メンバーの心を打った。

それは、自分の子供の小さい頃に重ねて、赤ちゃんからこんなに成長し、とても落ち着いていて立派にお礼を言ってくれた事に、皆感激し涙ぐんでしまった。こんな経験もふきのとうの活動を続けてきたからこそ味わえたのだと思っている。私達も、これまでの活動を続けてきた中で子供達から元気をもらい、多くの人々の励まし言葉に支えられ成長してきたと思う。これからも、子供達の喜ぶ顔を見るため、色々と工夫をこらしながら練習して頑張っていこうと思う。



ほっやういふとは

自立生活センターほっやういふ 梅津 洋治

私たちは、障がい者が中心となつて同じ障がいを持つ人の自立支援活動を行っています。それぞれの障がい者が抱えている悩みや課題と一緒に解決へ向けてのサポート活動や福祉制度など社会資源の使い方の情報提供です。また、地域福祉向上を目的とした研修会や公開福祉セミナー等の学習会を各地で開催しています。

その中の一つに、ピア・カウンセリング講座があります。心に悩みや傷を持つ参加者がお互いに障がいを持つ仲間として信頼関係を築き、自分の力で立ち上がるまでの道程を、同じ障がい者であるピア・カウンセラー（講師）が導きサポートするものです。エンパワメント支援とも言えます。身体が不自由で何もできない人と言われ続けてきた、重い障がいを持つ多くの障がい者が自立して社会の中で生きていくために、本来の自分と出逢うまで一度は向き合わなければならぬ試練があります。

今年度は、ピアカウンセラー（障がい当事者が必須の条件です）を京都から招き、東根市身障保養施設「東紅苑」にて二泊三日の研修会を開催しました。





和光園でのお手伝い

個人ボランティア 鎌田 令子

私は個人ボランティアとしてボランティア連絡協議会に入会しておりますが今年の活動は微々たる事しか出来ませんでした。しかし永年更生保護女性会と云うボランティア団体の会員として色々活動して来ました。その結果その精神だけは培われたと思います。デイサービス和光園に言ってお茶を出したり風呂上りの髪をドライヤーで乾かしたり体が不自由になった利用者さん達と交流するのですが、皆さんから「ありがとさん」と云われると私もそのうち同じになるのだから、と答えています。そして皆さんの笑顔に私自身とても心が和むのです。病気が高齢になり体が不自由になった方達が和光園に来るのを楽しみに思っている様子にこれからも私の方の事情が許されるならお手伝いしたいと思っております。今こうして書いてみると皆さんの笑顔を思い出します。

最後に益々少子高齢化が進んでいる中でのこれからの社会に向けて、中学生や高校生のボランティア教育は素晴らしい事だと感じております。



東日本を襲った大地震と津波

尾花沢市昔を語る会 三宅太二郎

私達東北に住む人々にとつて、忘れられない二年前の三月十一日の午後二時四十六分、突然私達が経験した事のない大地震と巨大津波が発生し、東北の太平洋沿岸にとつてもない傷跡が残りました。

二年前私達昔を語る会は、尾花沢市と十年も前から交流を続けている岩沼市を訪問して少しでも励まそうということになり、みちのく村山農協尾花沢営農センター所長山口氏にお願いしスイカを分けて頂き、差し入れをしてまいりました。

岩沼市の里の杜仮設住宅へ行かせていただき、その集会所でスイカを振る舞い、又、会員による「とんと昔」を披露して被災者の方々に楽しんでいただきました。

その節は、岩沼市社会福祉協議会会長の三浦氏(寺内出身)にもおいでいただき、ご挨拶をいただきました。また、職員の方々にもお手伝いいただき、事故もなく支援する事ができました。

本当に熱い中ではありましたが、充実した1日になり、この支援に携わっていただいた方、会員の方々には厚く御礼を申し上げます。



つながり

たんぼぼ会 間宮みさ子

たんぼぼ会は障がいのある子を持つ母親の集まりです。

障がいのある子供達が仲間と交流できる場「作業所」が欲しいと願った集まりです。

平成十一年に小規模作業所「はながさ」が開所してから、お付き合いをさせて頂いています。

今年度の活動は、はながさの利用者さんの声を聞いてお食事会に決定となりました。

つけ麺、デザート、ケーキ、漬物だけですが、和気あいあい楽しい食事会になりました。

新庄養護学校の実習生と担任も加わりそれはそれは賑やかでした。

同じ悩み、同じ願いを持った者同士が理解し合い、共通の願いにちよつとでも近づける事が出来たらしいなあと思っております。

一人だけでなく、身近な人とのつながりを大事にしたいと思います。

たんぼぼ会とつながりを持ちませんか。





震災被災地岩沼市を訪問して

個人ボランティア 松本 コト



昨年十月尾花沢市ボランティア連絡協議会の視察研修で岩沼市被災者仮設住宅を訪問しました。六沢大根を四百本を持参し、皆さんに配っていた時、某女性団体の会長だった方に偶然再会いたしました。彼女は津波で広大な農地、家、農機具すべて流されて今は仮設住宅住まいです。

しかし、今は、とても前向きで狭い部屋に同じ境遇に人を集め「今日はどんぱん節の練習をして来た」と言っていました。

一本の大根を前に、おでん、漬物、皮のきんぴらと逆境にありながらも周りの人の声を的確に引き出し、賑やかに場を盛り上げるリーダー的存在の人の大切さを痛感したひと時でした。

ありがとう



尾花沢中学校より贈り物

尾花沢中学校JRC委員会で、アルミ缶を集めて、車いすを購入し尾花沢市社会福祉協議会に寄付していただきました。この活動は毎年行われている恒例行事となりました。毎年、福祉施設に寄付していただき、それぞれの施設で大切に使用しております。



尾花沢地区婦人会さんまるだし売り上げを寄付

尾花沢市地区婦人会さんが会員さんから品物を持ち寄ってもらい、それをバザーとしてまるだしに出店いたしました。いろいろな品物がありましたが、中にはご自分で作られた製品などもあり、既製品でもこの値段では買えないような商品もたくさんありました。その売上金を福祉に役立てていただきたいと申し出があり、社会福祉協議会へ寄付金としていただきました。ありがとうございました。

平成25年度ボランティア保険に加入しましょう

※平成25年度から保険料が変わります

保険の種類		Aプラン	Bプラン
年間 保険料	基本タイプ	300円	450円
	天災タイプ*	460円	690円



※天災タイプでは、天災（地震・噴火・津波）に起因する被保険者自身のケガを補償しますが、賠償責任の補償については、天災に起因する場合は対象になりません。



サマーヤングボランティア2012

ほたるの里郷土資料館を見学してきました



「牛房野のほたるの里郷土資料館」みなさんをご存知ですか？実は旧牛房野小学校を言うんです。ここには、昔使った農機具や土器などの出土品が数多く展示されています。今回参加してくれた子供達は初めて見る道具ばかりで、大類館長のお話しを聞きながら物珍しそうに見学していました。ここには尾花沢市ボランティア連絡協議会のメンバーも同行しましたが、若干年を重ねたおねえさん達は「懐かしいね」と目を見張っていました。

バルーン アート!?

バルーンアートとは、長〜い風船をキュッキュと回しながらねじりしぼり、つなげたり合体させたり、慣れればいろんな動物や物に早代わり!!

みんな割れるんじゃないかって、キャーキャー言いながら完成させましたよ。



車いす体験

毎年恒例の車いす体験。みんなそれぞれ車いすに乗って、快適度、危険度、安楽度、速さ、など確かめながら、介助する側される側を体験しました。

福祉の心がみんなに芽生えたかも……。

最後はボランティアさん達が作ってくれたカレーライスを食べ、満足満足。ご飯はアイラップに米を詰めて災害時炊飯体験をしました。たった半日でしたが、楽しい夏の日でした。

